

事業報告

I 概況

新型コロナウイルスの感染拡大は、当協会の事業にも大きく影響してきました。2022年度は、感染の収束を受けて各種講習会においては人数制限を行い、意見交換会も感染対策を取りつつ実施してきました。また、海外鉄道視察団は昨年度に引続き見送り、運転業務研究発表会は聴講者を無観客としましたが、YouTubeでのライブ配信を行うなど多くの会員に発表内容を紹介させていただきました。なお、各種委員会では、本題のほかに新型コロナウイルスの感染状況などの情報交換を行っています。

「技術基準」に関しては、解説書である鉄道に関する技術基準の運転編の見直しを協会の自主研究と位置付けて、引続き取り組むこととしました。また、動力車操縦者運転免許制度のあり方に関しては鉄道事業者の意向を調査するとともに、動力車操縦者の身体検査（聴力）の基準を測定可能な数値基準に見直すことを想定して、検討するための基礎データを収集しました。

II 会務関係

会務活動については、2022年6月1日に第12回評議委員会、6月3日に第45回理事会、6月30日に第12回定時社員総会及び第46回理事会、11月25日に第47回理事会と支部長会議を開催した他、2023年3月3日に第48回理事会を開催して業務執行体制の更なる定着を図ってきた。

また、第16回運営委員会を2022年8月18日に開催したほか、各種委員会等についても、ほぼ計画通り実施することができた。

1 第12回定時社員総会

2022年6月30日13時30分 第12回定時社員総会を日本交通協会大会議室において開催した。会員総数25,427名中、出席者71名、委任状21,792名、合計21,863名（正会員及び法人会員総数の86%）にて定款第18条に基づく「過半数」を満たして成立し、次の議案を審議し、それぞれ承認、可決された。

(1) 報告事項

- ・2021年度事業報告
- ・2022年度事業計画及び収支予算について

(2) 決議事項

- 第1号議案 2021年度決算の承認に関する件
- 第2号議案 理事及び監事の選任に関する件

(3) 講演会

- ・講演者 JR 東日本健康推進センター・所長
医学博士 笠原悦夫
 - ・演題 鉄道の安全と健康管理
- 講演内容は、Cisco Webexにて会員に配信

2 第12回評議委員会 ステーションコンファレンス万世橋

2022年6月1日 16時00分から開催し、次の案件を審議承認した。

議案 理事及び監事の候補者に関する件

報告事項 評議委員会委員

その他、総会附議事項の説明を行った。

3 理事会

(1) 第45回理事会 ステーションコンファレンス 万世橋

2022年6月3日 16時00分から開催し、次の議案の審議及び可決を行ったほか、報告事項の承認を行った。

決議事項

第1号議案 2021年度事業報告について

第2号議案 2021年度決算及び監査報告に関する件

第3号議案 第12回定時社員総会への附議事項に関する件

(1) 報告事項

・2022年度事業計画並びに予算

(2) 決議事項

・理事及び監事の選任に関する件

(2) 第46回理事会 日本交通協会会議室

2022年6月30日 14時25分から開催し、次の議案の審議及び可決を行った。

決議事項

第1号議案 代表理事・専務理事選定の件

第2号議案 顧問選任の件

第3号議案 運営委員会委員の選任・承認に関する件

第4号議案 専務理事の辞任に伴う退職慰労金支給の承認に関する件

(3) 第47回理事会 ステーションコンファレンス万世橋

2022年11月25日 16時00分から開催し、次の議案の審議及び報告を行った。

決議事項

第1号議案 2022年度表彰に関する件

2022年度運転功労者表彰者、協会功績者褒賞及び運転協会誌優秀作品表彰者の決定について

第2号議案 顧問選任の件

報告事項

- ・2022年度上半期決算報告について
- ・東記念賞選考委員会の選考結果について
- ・2021年度の運転業務研究発表会の結果について
- ・運輸業務管理ゼミナールの開催について
- ・会員状況について
- ・会務報告と今後の予定

(4) 第48回理事会 ステーションコンファレンス万世橋

2023年3月3日 16時00分から開催し、次の議案の審議及び報告を行った。

決議事項

第1号議案 2023年度事業計画(案)及び予算(案)に関する件

第2号議案 第13回定時社員総会招集の件及び同社員総会に附議する議案に関する件

報告事項

- ・2021年度決算見込みについて
- ・2022年度の主要会務予定について
- ・会員状況について
- ・運転設備研修講座の開催について
- ・運転理論(運転曲線)講習会の開催について
- ・運転法規研修講座の開催について
- ・研修・講習会のご案内

4 運営委員会

第16回運営委員会 ステーションコンファレンス万世橋

2021年8月19日 14時00分から開催し、次の案件の報告・審議を行った。

会務報告

- ・2022年度の会務経過と今後の予定
- ・会員状況について
- ・運転理論講習会開催について
- ・運転法規研修講座開催について
- ・運転関係指導者講習会開催について
- ・2022年度（第43回）運転業務研究会発表会について

審議事項

- ・2022年度運転功労者表彰の支部別割当数について

5 第27回支部長会議 ステーションコンファレンス万世橋

2022年11月25日 14時30分から開催し、次の案件の報告等を行った。

- ・支部別等会員数 (報告)
- ・支部別・事業者別正会員数 (報告)
- ・支部別・運輸局別法人会員数 (報告)
- ・支部会員数の各年度月別推移 (報告)

6 東記念賞選考委員会 ステーションコンファレンス万世橋

2022年11月25日 15時35分から開催し、候補案件を審議した。

その結果、下記案件に決定した。

- ・西九州新幹線の開業効果を最大に活かすために
(九州旅客鉄道株式会社)

7 企画委員会

(1) 第293回開催 北海道旅客鉄道(株)「社員研修センター・会議室」

2022年5月19日(木)に開催、次の案件の報告と審議を行った。

- ・運転理論(運転曲線)講習会の開催について
- ・2022年度運転業務研究発表会の開催とご参加のお願いについて
- ・各社局の情報連絡について
- ・その他

(2) 第294回開催 東京地下鉄(株)「総合研修訓練センター・会議室」

2022年7月22日(金)に開催、次の案件の報告と審議を行った。

- ・運転法規研修会の開催について
- ・運転関係指導者講習会のご案内について
- ・東記念賞の推薦について
- ・各社局の情報連絡について
- ・その他

(3) 第295回開催 四国旅客鉄道(株)「愛媛企画部・会議室」

2022年9月15日(木)に開催、次の案件の報告と審議を行った。

- ・運転功労者表彰の支部別割当について
- ・運転関係指導者講習会について
- ・運転業務研究発表会について
- ・東記念賞業績候補への申請について
- ・運転協会功績者褒賞の推薦について
- ・各社局の情報連絡について
- ・その他

- (4) 第296回開催 東急電鉄(株)「渋谷駅研修室」
2022年11月9日(水)に開催、次の案件の報告と審議を行った。
- ・ 運転業務研究発表会について
 - ・ 運輸業務管理ゼミナールについて
 - ・ 東記念賞候補への申請(案)について
 - ・ 運転協会功績者褒賞候補者の推薦(案)について
 - ・ 運転協会誌の優秀論文会長賞候補作品、優秀論文賞候補作品、優秀エッセイ賞候補作品、佳作賞候補作品について
 - ・ 各社局の情報連絡について
 - ・ その他
- (5) 第297回開催 京王電鉄(株)「京王クラブミーティングルーム」
2023年1月19日(木)に開催、次の案件を報告と審議を行った。
- ・ 運転協会創立64周年記念式典での2022年度各賞の表彰について
 - ・ 運輸業務管理ゼミナールについて
 - ・ 各社局の情報連絡について
 - ・ その他
- (6) 第298回開催 阪神電気鉄道(株)「本社・会議室」
2023年3月9日(木)に開催、次の案件の報告と審議を行った。
- ・ 2023年度(第63回)海外鉄道視察団の派遣について
 - ・ 運転設備研修講座について
 - ・ 2023年度日本鉄道運転協会事業計画(案)概要
 - ・ 2023年度研修会・講習会のご案内について
 - ・ 各社局の情報連絡について
 - ・ その他

8 運転管理研究委員会

- (1) 第23回開催 ステーションコンファレンス万世橋「404会議室」
2022年5月9日(月)に開催、次の案件の審議を行った。
- ・ 「IT・ICTの活用による輸送の安全性・安定性向上と業務効率化」アンケート調査結果についての報告と各社局の取組みと課題等の意見交換
 - ・ 次回検討希望テーマ(課題)について
 - ・ 各社局の情報連絡について
 - ・ その他
- (2) 第24回開催 「JRホテルクレメント徳島・会議室」
2022年12月8日(木)に開催、次の案件の審議を行った。
- ・ 「多様化する乗務員の働き方について」アンケート調査結果の報告と各社局の取組み、課題等の意見交換
 - ・ 次回検討希望テーマ(課題)について
 - ・ 2023年度の委員長、副委員長(2名)の改選(選出)について

委員長：石橋 憲司(西武鉄道(株))	⇒	延命 誠(京成電鉄(株))
副委員長：松尾 英典(九州旅客鉄道(株))	⇒	志水 仁(日本貨物鉄道(株))
副委員長：勝野 泰成(名古屋市交通局)	⇒	阿曾 英明(京都市交通局)
 - ・ 各社局の情報連絡について

9 安全情報委員会

2022年度は特に課題となる案件がなかったことから、委員会は開催しなかった。なお、A情報、B情報ともに情報提供はなかった。

1 0 運転協会誌編集委員会

2022年度は、6月9日に札幌、9月8日に大阪、11月16日に長崎で開催したほか、上記を除く毎月上旬に東京地区において開催し、その都度運転、協会誌の編集計画を審議して決定した。

1 1 運転協会事務担当者打合会議

運転協会の事業・支部活動・会員の増加対策ため、8月6日に関西地区事務担当者会議を大阪にて開催、9月15日に関東地区事務担当者会議を東京にて開催した。なお、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえ、全国事務担当者会議は中止とした。

1 2 支部活動

(1) 北海道支部	2022年12月16日	支部総会（書面決議）
(2) 東北支部	2023年1月26日	会計監査
	2023年1月26日	支部総会（書面決議）
(3) 新潟支部	2023年3月31日	支部総会（書面決議）
(4) 中部支部	2022年8月29日	会計監査
	2022年9月9日	支部総会（書面決議）
(5) 関西支部	2022年5月13日	会計監査
	2022年7月8日	運営委員会
	2022年7月26日	支部総会
(6) 広島支部	2022年9月9日	支部総会
	2022年8月24日	会計監査
(7) 四国支部	2022年10月14日	会計監査
	2022年10月25日	支部総会（書面決議）
(8) 九州支部	2022年6月30日	会計監査
	2022年7月4日	運営委員会
	2022年7月14日	支部総会
(9) 関東部会	2022年9月2日	部会

1 3 見学・試乗・講演会

2022年度は、中部支部において2023年3月23日に中部国際空港の見学会を開催し、38名の参加があった。また、九州支部では総会開催時に講演会を実施した。

1 4 役員及び職員等（2023年3月31日現在）

役職名	定員	実員
代表理事・会長	1名	1名
代表理事・専務理事	1名	1名
執行理事	2名以内	2名
理事（上記を除く）	46名以内	44名
監事	2名以上5名以内	3名
職員・嘱託	—	9名

1 5 会員数（2023年3月1日現在）

正会員（個人）	24,595名（対前年同期比	942名減）
法人会員	225社（対前年同期比	0社減）

Ⅲ 事業関係

1 2022年度の主な事業概要は、以下のとおりである。

- (1) 運転協会誌は、旬なテーマを特集として取り上げ、読者が興味を持ち、役立つ内容の編集に注力した。
- (2) 受託調査研究は、国土交通省から「鉄道に関する技術上の基準を定める省令第113条(停止を指示する信号の現示)等に関する調査検討」、「動力車操縦者運転免許に関する調査及び分析」、「令和4年度動力車操縦者運転免許制度のあり方に関する調査検討」、「令和4年度動力車操縦者の身体検査に関する調査検討」の4件を受託した。
なお、鉄道事業者からの受託件名は、今年度はなかった。
- (3) 自主研究は『乗務員のヒューマンエラーにおける未然防止対策および再乗務への教育指導について』3月23日開催の第1回委員会で承認された。
- (4) 2022年度の講習会は、新型コロナウイルスの感染拡大から次の5講座を人数制限行い、対面講習で開催した。運転設備研修講座(63名)、運転法規研修講座(67名)、運転理論(運転曲線)講習会(64名)、運転関係指導者講習会(158名)、運輸業務管理ゼミナール(54名)の合計406名の受講者の参加があった。
- (5) 運転業務研究発表会は、43回目となり11月10日、11日に開催され30件の研究テーマの発表があった。今回、聴講については無観客としYouTubeでのライブ配信を実施、最大同時接続数158箇所、再生回数1,265件であった。
- (6) 海外鉄道視察団派遣は、世界的な新型コロナウイルスの感染の収束が見込めないことから中止とした。
- (7) 平成23年4月1日にリスク情報共有化の仕組みの一環として、安全情報委員会を設置し、平成23年7月1日より、当面、法人会員30事業者(JR7社、公営7都市、大手民鉄16社)を対象とし、インデックス情報等からなる新しい情報共有のしくみを構築し、活動を開始した。2022年度においては、A情報、B情報ともに情報提供はなかった。

2 運転協会誌発行

第64巻4月号から第65巻3月号までを発行した。前年に引き続き協会会員の要望に応えるよう出来るだけ各号を特集化し、資料としても活用できるように配慮した編集に尽力して、会員の負託に応えられるよう更なる内容の充実を図った。

なお、特集号における座談会については、新型コロナウイルスの感染状況によって、一部の参加者をオンラインで参加していただくなどの対応をとった。

2022年	4月号	働き方改革	特集
〃	5月号	防犯対策	特集
〃	6月号	ダイヤ改正	特集
〃	7月号	路面電車	特集
〃	8月号	SDGsの取り組み	特集
〃	9月号	イベント&観光列車	特集
〃	10月号	臨海鉄道	特集
〃	11月号	降積雪対策	特集
〃	12月号	自然災害	特集
2023年	1月号	(新年号のため特集なし)	
〃	2月号	業務研究	特集
〃	3月号	運転保安装置	特集

3 図書発行・販売

- (1)「解説 鉄道に関する技術基準（運転編）」（第八版）（令和2年4月発行）
省令及び解釈基準を制定した時点での技術的根拠、事例等の考え方等をまとめものであり、実施基準の策定、管理、運転の取扱い等に活用が期待される書で、販売数は252冊であった。
- (2)「運転理論（再改訂版）」（初版）（平成22年5月発行）
輸送計画における運転理論の役割、基礎項目の解説から運転線図の作成までを最近の鉄道技術の進歩に合わせて改訂した詳細解説の専門書で、販売数は129冊であった。
- (3)「鉄道のスピードアップ」（第四版）（平成8年7月発行）
鉄道のスピードアップの技術は、車両・施設・電気・運転等全般にわたるため、各専門分野の第一人者の方々の協力を得て、体系的に整理された技術書で、販売数は8冊であった。
- (4)「鉄道の運転保安設備（付 輸送計画実務の手引き）」（初版）（平成18年9月発行）
鉄道の運転保安設備に関する基本的な考え方や、新しいシステム・機器の開発を含め、輸送・運転・設備関係者の実務・教習用としてまとめ整理された専門技術書で、販売数は107冊であった。
- (5)「重大運転事故記録・資料（復刻版） 追補第二版 昭和62年4月～平成23年3月」
（平成25年12月発行）
鉄道有史以来平成23年3月までの旧日本国有鉄道及び地方鉄道・軌道における重大事故記録をまとめたもので、鉄道の運転・保安業務に携わる方々を中心に購入希望があり、29冊の販売数であった。
- (6)「安全の仕組みから解く 鉄道の運転取扱いの要点」（初版）（平成24年8月発行）
鉄道の安全の仕組みの生い立ちと現在の運転取扱いとの関わりについてまとめたもので、鉄道事業者の関係者などに向けた専門書であるが、易しく核心を捉えた解説書で、販売数は66冊であった。
- (7)「安全のキーポイント～ヒューマンエラーの防止～」（復刻版）（平成26年2月発行）
平成8年以来、絶版となっていたが、会員の要望により復刻した。実務を基礎としたヒューマンエラーの防止を「こころの働き」「適性」「からだのリズム」「乗務作業の特徴」「エラー行動」「教育・指導方法」「運転用機器」「健康管理」の8つのキーとして捉え、解説をしている指導・保安担当関係者の基礎学習書で、販売数は26冊であった。
- (8)「実践運転概論」（第二版）（令和2年6月発行）
協会顧問が永年にわたって講習した内容をわかりやすくまとめて、書籍として発行した。また、一部版の改訂を行った。販売数は100冊であった。
- (9)「わかりやすい運転操縦実務」（初版）（平成27年3月発行）
平成25年度、26年度にかけて設置した「わかりやすい運転操縦実務研究委員会」による報告書を元に書籍化した。運転士目線での運転操縦実務を解説した技術解説書で、販売数は59冊であった。
- (10)このほか、運転協会誌の一般書店等における販売数が681冊であった。

4 受託調査研究

- (1)「鉄道に関する技術上の基準を定める省令第113条（停止を指示する信号の現示）等に関する調査検討」（国土交通省委託）
鉄道の技術基準については、平成14年3月に技術基準省令が性能規定化されて以来、国土交通省から、この省令等の運転関係における見直しについての調査検討を委託されている。2022年度は、特殊信号発光機の運用通達発出に伴う解釈基準と解説の見直し案を検討した。また、GoA2.5自動運転において、「緊急停止操作を行う係員（以下、「GoA2.5係員」という。）を列車の最前部の車両の前頭に乗務させる場合」の、省令第11条（動力車を操縦する係員の乗務等）の解釈基準の中で、GoA2.5係員の位置づけ等について検討した。
なお、「解説 鉄道に関する技術基準（運転編）」（通称、「緑本」）の見直しについては、技術基準調査研究会（運転）のもとで自主研究として当協会が事務局となって進めていくこととした。

(2) 「動力車操縦者運転免許に関する調査及び分析」、「令和4年度 動力車操縦者運転免許制度のあり方に関する調査検討」(国土交通省委託)

動力車操縦者の運転免許制度については、昭和31年に制定された動力車操縦者運転免許に関する省令(以下、「動免省令」という。)において、制度を定め、これまで運用されている。また、動免省令に規定される指定養成所については、昭和44年に制定された通達「指定動力車操縦者養成所に対する指導基準」(以下、「指導基準通達」という。)において、講習内容や使用教材等の運転士養成に必要な項目が定められているが、制定されて以降、一度も大きな見直しが行われることがないまま、今日に至っている。

一方、この間のハイブリッド車両等の導入や、CAI教材やシミュレータ等の効率的な学習を実現するための教材の充実等により、制定当時とは環境が大きく異なっていることから、運転士の資質の維持向上と鉄道輸送の安全が確保されることを前提に、令和4年度は動免省令並びに指導基準通達に対する鉄道事業者の意向を調査し、制度の見直しに向けた検討を国土交通省から委託され、報告した。

(3) 「令和4年度 動力車操縦者の身体検査に関する調査検討」(国土交通省委託)

動力車操縦者の身体検査(聴力)について、現在、省令で定められている「各耳とも5メートル以上の距離でささやく言葉を明らかに聴取できること。(以下、「囁き声検査方式」という。)」と定められている基準を、将来オーディオ・メーターでも測定可能な数値基準に見直すことを想定し、動力車操縦者が聴取すべき音の種類や暗騒音等に関する調査を令和3年度に続き委託され、国土交通省に報告した。

令和4年度においては、上記調査に加え、聴力検査を囁き声検査方式で実施している鉄道事業者を訪問し、囁き声の音圧と周波数を測定し、数値基準との整合性を検討するための基礎データを収集した。

5 自主研究

2022年度(第41回)の研究テーマについては、参画会社から23件の提案があった。調査研究テーマを『乗務員のヒューマンエラーにおける未然防止対策および再乗務への教育指導について』に設定し、2回の小委員会と9回の幹事会を開催すると共に、研究内容について2023年3月23日に開催した第1回委員会で報告し、承認していただいた。研究内容については参画事業者へアンケートを依頼、結果を分類・整理し考察して2024年3月末に製本、実効性の高いものを各事業者へ配布する。

6 講習会等

(1) 第27回運転設備研修講座

- ・ 施行日 2022年6月1日～3日
- ・ 会場 機械振興会館
- ・ 受講者 63名
- ・ 講師 (順不同・敬称略)

国土交通省鉄道局技術企画課
東日本旅客鉄道(株) 鉄道事業本部
一般社団法人日本鉄道運転協会
一般社団法人日本鉄道運転協会

電気基準係長
安全企画部主幹
技術部長
顧問

波多野 敦士 氏
片方 喜信 氏
寒河江 仁 氏
石井 信邦 氏

(2) 第28回運転理論(運転曲線)講習会

- ・ 施行日 2022年8月23日～26日
- ・ 会場 機械振興会館
- ・ 受講者 64名
- ・ 講師

元JR水戸鉄道サービス(株) 監査役

赤津 尚孝 氏

(3) 第28回運転法規研修講座

・施行日 2022年9月7日～9日

・会場 機械振興会館

・受講者 67名

・講師 (順不同・敬称略)

国土交通省鉄道局技術企画課

東京地下鉄(株)安全・技術部

元西日本旅客鉄道(株)安全推進部

運転基準係長

技術管理担当部長

担当部長

関根 崇光 氏

作原 敏弘 氏

石浜 順吉 氏

(4) 第57回運転関係指導者講習会

・開催日 前期 2022年10月 5日(水)～7日(金)

後期 2022年10月19日(水)～21日(金)

・会場 機械振興会館

・受講者 158名(前期79名 後期79名)

・講師 (順不同、敬称略)

国土交通省 鉄道局

JR東日本健康推進センター

(株)JR東日本パーソネルサービス

株式会社ルミネクリエーツ

(株)JR東日本パーソネルサービス

愛媛大学 防災情報研究センター

JR東日本研究開発センター

(株)パーソネルサービス(派遣依頼)

(株)オンリーワン

公益財団法人鉄道総合技術研究所

安全心理

安全監理官

医学適性科担当部長

所長

常務取締役

総合研修センター

事業本部 副本部長

代表取締役社長

契約講師

客員教授

担当部長

(ヒューマンファクター)

専属講師

上席研究委員 GL

黒川 和浩 氏

山本 尚寿 氏

笠原 悦夫 氏

佐藤 寿 氏

土屋 博一 氏

瀬戸 満夫 氏

島村 誠 氏

楠神 健 氏

川添 美和 氏

宮地 由芽子氏

(5) 第20回 運輸業務管理ゼミナール

・施行日 2023年2月9日～10日

・会場 機械振興会館

・受講者 64名

・講師 (順不同・敬称略)

国土交通省 鉄道局

元帝都高速度交通営団

(株)オンリーワン

東急電鉄株式会社

静岡英和学院大学

西日本旅客鉄道株式会社

安全監理官

専属講師

総括産業医

教授

安全研究所次長

黒川 和浩 氏

佐藤 公一 氏

小島 順子 氏

伊藤 克人 氏

重森 雅嘉 氏

清水 誠一 氏

7 第62回海外鉄道視察団派遣

2022年度の海外鉄道視察団派遣は世界的な新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。

8 第43回運転業務研究発表会

- (1) 実施日 2022年11月10日、11月11日
- (2) 会場 機械振興会館 ホール
- (3) 聴講者 無観客
- (4) YouTubeでのライブ配信 最大同時接続数158箇所 再生回数1265件
- (5) 発表社局と発表テーマ 25社30テーマ（2022年度までの累積発表件数972件）
- (6) 発表者と表彰結果

第43回運転業務研究発表作品数は30件の応募があり、発表後の審査結果は、鉄道局長賞1社、協会会長賞1社、交通新聞社賞1社、審査委員特別賞1社、優秀賞7社、奨励賞7社、努力賞12社であった。

（運転業研発表会作品成績表 別紙-1参照）

9 創立記念式典及び表彰関係

2023年1月27日創立64周年記念式典を飯田橋ホテルメトロポリタンエドモントにおいて挙行し、東記念賞、運転功労者表彰、運転協会誌優秀作品賞及び協会功績者褒章の表彰を行った。

（運転功労者賞、運転協会誌優秀作品賞、協会功績者褒賞名は、別紙-2、3参照）

(1) 東記念賞

件 名	受賞者
西九州新幹線の開業効果を最大限に活かすために	九州旅客鉄道株式会社

- (2) 運転功労者賞：鉄道の運転業務に顕著な功績があつて支部長から推薦された28名に表彰状を授与した。累計では2022年度までに1,206名を数えている。
- (3) 運転協会誌優秀作品賞：運転協会誌において特に優秀と認められた作品に対して優秀論文会長賞1名、優秀論文賞3名、優秀エッセイ賞3名に表彰状を授与した。
- (4) 協会功績者褒賞：運転協会の発展に特に貢献された4名に褒賞を授与した。

10 運転協会誌表紙写真コンテスト

2023年度用運転協会誌表紙写真コンテスト（応募者72名、作品318点）は、2023年3月7日の審査で入選作品を決定し、表彰した。

特選	大村湾を臨む	京浜急行電鉄（株）	小林 航 氏
1等	月の出を背に	京王電鉄（株）	吉田 忠司 氏
	生命	東急電鉄（株）	佐藤 宏至 氏
	黒煙を上げて	京王電鉄（株）	加藤 俊哉 氏
2等	6点		
佳作	10点		

（運転協会誌表紙写真コンテスト入賞者一覧 別紙-4参照）

事業報告の付属明細書

別紙一 1 第43回運輸業務研究発表会作品成績表
2022年度 第43回運輸業務研究発表会 研究作品成績表

2022年11月10日・11日

場所：機械振興会館

一般社団法人 日本鉄道運輸協会

賞	題	会社名	職種名
鉄道局長賞	「不安へのアプローチ ～私たちにもできるんだ～」	近畿日本鉄道株式会社	鉄道本部 名古屋統括部 運輸部 富吉列車区
協会会長賞	"Update" ～職人世代と共に学ぶ、究極のアップグレード術～	東武鉄道株式会社	鉄道事業本部 技術統括部 運輸部 館林乗務管区
交通新聞社賞	信号確認トレーニングツールの作成	阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 運輸部 宝塚線運輸課運輸係
審査員特別賞	自作訓練シミュレータ製作と活用	愛知環状鉄道株式会社	運転区
優秀賞	事故防止の新しいカタチ『安全パトロール』	小田急電鉄株式会社	交通サービス事業本部 運転車両部 足柄電車区
優秀賞	迅速な情報検索と情報配信の充実化	西日本鉄道株式会社	鉄道事業本部 運転車両部 運転課 運転指令所
優秀賞	お客さまと一緒に鉄道の安全を考え築く安全を、一緒に。 プロジェクト	京浜急行電鉄株式会社	鉄道本部 運輸営業部 金沢文庫乗務区
優秀賞	プロジェクトチーム一致協力で事故未然防止	東急電鉄株式会社	鉄道事業本部 運輸部 元住吉車庫区
優秀賞	車両部品取り外しマニュアルの作成について	日本貨物鉄道株式会社	岡山機関区
優秀賞	認知欠如による運転事故を防止する研究	東海旅客鉄道株式会社	静岡支社 沼津運輸区
優秀賞	iPadを活用したヒューマンエラー対策について	東京地下鉄株式会社	鉄道本部 運転部 日比谷線乗務管区
奨励賞	車内混雑のリアルタイム取得及びアプリ配信	東京地下鉄株式会社	鉄道本部 運転部 運転課 輸送課
奨励賞	あずさプロジェクト・SpotTourを活用した観光案内	東日本旅客鉄道株式会社	新宿運輸区
奨励賞	『「Myおせっかい」で自己防衛』	京阪電気鉄道株式会社	営業推進部 営業課 大阪列車区
奨励賞	「SDGs座席カバーの開発」	京王電鉄株式会社	鉄道事業本部 鉄道営業部 運輸指令所 高輪不動乗務区
奨励賞	ダイヤ混乱時における乗務員の位置情報把握	相模鉄道株式会社	運輸車両部 運輸課 かしわ台電車区
奨励賞	次世代ラッセル車導入へ向けた取り組み	北海道旅客鉄道株式会社	旭川運輸所
奨励賞	"Uうっかりミス PポイントL聴いて事故防止" ～「ヒョン」を発生させない為のコミュニケーション力～	東武鉄道株式会社	鉄道事業本部 技術統括部 運輸部 七光台乗務管区
努力賞	相互理解が生む安全性向上 「乗務員のマルチタスク」～運転士の仕業に車掌業務を～	南海電気鉄道株式会社	鉄道営業本部 運輸車両部 南海線列車区 高野線列車区
努力賞	「ヒヤリ・ハット業務効率化で安全性向上」	名古屋鉄道株式会社	名古屋乗務区
努力賞	ICT技術を活用した効果的・効率的な教育方法の検討 ～LMSを活用した効率的な訓練の実施～	東海旅客鉄道株式会社	関西支社 大阪第二運輸所
努力賞	非常時における阪急版安全のしおり作成	阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 運輸部 京都線運輸課運輸係
努力賞	運転操縦による経費削減の取り組み	仙台空港鉄道株式会社	運輸管理所
努力賞	インフォメーションシェアリング ～異常時対応能力の向上を目指して～	大阪市高速電気軌道株式会社	交通事業本部 運輸部 八尾乗務所
努力賞	乗務員が主体となる事故防止へのアプローチ	四国旅客鉄道株式会社	松山運輸所
努力賞	安心・安全の乗降介助 ～音声によらない介助方法の研究～	北大阪急行電鉄株式会社	鉄道事業本部 運輸課
努力賞	「停車プレーキ効果統一に向けた取り組み」	西日本旅客鉄道株式会社	中国統括本部 岡山運輸区
努力賞	経済運転による経費削減	九州旅客鉄道株式会社	熊本乗務センター 熊本車両センター
努力賞	地下ターミナル駅の備えについて	近畿日本鉄道株式会社	鉄道本部 大阪統括部 運輸部 大阪難波駅
努力賞	視覚教育による異常時の対応力向上 ～脱む教育から見る教育へ～	阪神電気鉄道株式会社	都市交通事業本部 運輸部 西部列車所

2022年度 運転功労者表彰者

番号	支部	賞	社名	所属部署・役職	氏名
1	北海道	運転功労者	北海道旅客鉄道株式会社	鉄道事業本部 運輸部 専任課長	増子 光昭
2	東北	運転功労者	東日本旅客鉄道株式会社	秋田支社 つがる運輸区 区長	丹藤 昭三
3	新潟	運転功労者	株式会社 J R 西日本金沢メンテック	安全品質管理部 取締役部長	白崎 味津男
4	関東	運転功労者	東日本旅客鉄道株式会社	水戸支社 勝田車両センター 所長	白土 裕之
5	関東	運転功労者	東日本旅客鉄道株式会社	千葉支社 習志野運輸区 区長	兼岡 治夫
6	関東	運転功労者	東海旅客鉄道株式会社	新幹線鉄道事業本部 小田原駅 駅長	澤田 之宏
7	関東	運転功労者	東京地下鉄株式会社	鉄道本部営業部 後楽園駅務管区 区長	高橋 亮一
8	関東	運転功労者	東京地下鉄株式会社	鉄道本部運転部 運転企画課 課長補佐	川崎 知昭
9	関東	運転功労者	東武鉄道株式会社	運輸部 運転課 課長補佐	関口 真樹
10	関東	運転功労者	西武鉄道株式会社	人事部 課長	蜂木 清文
11	関東	運転功労者	京成電鉄株式会社	人事部 労務課 課長補佐	白鳥 正之
12	関東	運転功労者	京成電鉄株式会社	運輸部 京成成田駅 駅長	田中 日出明
13	関東	運転功労者	京王電鉄株式会社	鉄道事業本部 鉄道営業部 営業課 課長補佐	片岡 博之
14	関東	運転功労者	小田急電鉄株式会社	交通サービス事業本部 運転車両部 足柄電車区 助役	湯山 照晃
15	関東	運転功労者	東急電鉄株式会社	鉄道事業本部 運輸部 運転計画課 課長補佐	今野 毅大
16	関東	運転功労者	京浜急行電鉄株式会社	鉄道本部 運輸営業部 管理課 課長補佐	山藤 伸夫
17	関東	運転功労者	相模鉄道株式会社	運輸車両部 運輸司令所 運輸司令長	丸山 忠之
18	関東	運転功労者	新京成電鉄株式会社	鉄道営業部 乗務区 乗務区長	青木 広文
19	中部	運転功労者	東海旅客鉄道株式会社	東海鉄道事業本部 大垣駅 駅長	荒木 健治
20	中部	運転功労者	名古屋鉄道株式会社	太田川幹事駅 幹事駅長	廣瀬 雅彦
21	中部	運転功労者	愛知環状鉄道株式会社	新豊田駅 駅長	坂井 厚司
22	関西	運転功労者	西日本旅客鉄道株式会社	近畿統括本部 阪奈支社 大阪電車区 区長	松田 俊二
23	関西	運転功労者	近畿日本鉄道株式会社	鉄道本部 大阪統括部 運輸部 運行課 課長補佐	大野 進太郎
24	関西	運転功労者	阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 運輸部 神戸線運輸課 運転係 運転係長	藤本 雅信
25	関西	運転功労者	神戸電鉄株式会社	鉄道事業本部 運輸部 運輸課 運転係 運転係長	岡本 宣之
26	関西	運転功労者	株式会社 J R 西日本メンテック	網干営業所 所長	山中 康寛
27	広島	運転功労者	株式会社 J R 西日本中国メンテック	広島支店 山口西事業所 所長	神崎 義人
28	九州	運転功労者	福岡市交通局	運輸部 橋本乗務事務所 橋本乗務事務所長	伊藤 雅弘

別紙-3 運転協会誌優秀作品賞表彰者及び運転協会功績者褒章者

2022年運転協会誌 優秀論文会長賞、優秀論文賞、優秀エッセイ賞について

1. 優秀論文会長賞

執筆者名	会社名	標 題
西村 彩希	JR東日本テクノハート TESSEI	従業員のモチベーション向上のための取組み (2022.4月号)

2. 優秀論文賞

執筆者名	会社名	標 題
平賀 一政	東京都交通局	昭和～平成～令和 女性職員の職場環境改善と『当たり前』の変化 (2022.4月号)
村本 一樹 山下 佳	西日本旅客鉄道	新任運転士のための『雪ブレーキ勉強会』の実施 - 雪の怖さを知る - (2021.11月号)
奥本 将 宇佐美真希子	東日本旅客鉄道	令和元年東日本台風による北陸新幹線の被災・復旧状況 (2021.12月号)

3. 優秀エッセイ賞

執筆者名	会社名	標 題
森内 俊如	叡山電鉄	【職場のわだい】(316)土砂災害と地域に支えられた運転再開 (2022.5月号)
久保川真守	大井川鐵道	【職場のわだい】(320)お客様にさらなる感動をお届けするために (2022.9月号)
森田 俊光	伊予鐵道	【鉄道紀行】(417) 明治～大正～昭和～平成～令和 伊予鐵道が134年間に築いた魅力 (2021. 11月号)

2022年度 協会功績者褒章について

氏 名	会社名	職 名
奥村 崇岐	名古屋鉄道株式会社	鉄道事業本部 駅営業部 駅運営部長
古屋 元嗣	近畿日本鉄道株式会社	鉄道本部 名古屋統括部 運輸部 運行課長
八木宗一郎	阪急電鉄株式会社	都市交通事業本部 運輸部 宝塚線 運輸課長
酒井 和則	東京都交通局	交通局担当部長

２０２３年度運転協会誌表紙写真コンテスト入賞者

応募総数 73名 318点

賞	氏名	所属会社	作品名
特選	小林 航	京浜急行電鉄(株)	大村湾を臨む
1等	吉田 忠司	京王電鉄(株)	月の出を背に
	佐藤 宏至	東急電鉄(株)	生命
	加藤 俊哉	京王電鉄(株)	黒煙を上げて
2等	畑野 孝典	東日本旅客鉄道(株)	秋、深まる
	五嶋 保宏	西日本旅客鉄道(株)	共演
	小板橋美次	東日本旅客鉄道(株)	瑞風・朝陽と共に
	吉田 徹	東海旅客鉄道(株)	会いにいこう
	北川 治	小田急電鉄(株)	春の訪れ
	半澤 伸隆	相模鉄道(株)	夏空
佳作	小山 貴義	野岩鉄道(株)	福来たる
	長谷川 直	東海旅客鉄道(株)	安全を支える指差喚呼
	井筒 博之	首都圏新都市鉄道(株)	春うらら
	岩崎 武	近畿日本鉄道(株)	凍てる朝
	小峰 一茂	東武鉄道(株)	回雪ラッセル
	佐藤 峻	東急電鉄(株)	大イチョウとキハ
	太田 徹	西武鉄道(株)	輝けカシオペア
	上田 雄介	東急電鉄(株)	白富士を背に、西へ…
	石山 隆博	東京地下鉄(株)	最後の冬
	谷口 清和	相模鉄道(株)	夕暮れの力走